

大安寺報



名句・名言に学ぶ

渡辺和子 (ノートルダム清心学園理事長)
「今」という瞬間を意識して生きた
と思う。「今の心」と書くと「念」
という字になると気づいた時、「念
ずれば花開く」という言葉の意味が
わかるように思ったものです。

年末年始は、これまで一年を振り返り、
また、来る一年に想いを馳せる時期。忙
しい年末を経て新年を迎えた朝、束の間
ほっとしつつも、新たな年の目標を立て、
また、その目標が叶うように神仏にその
成就を願うひとときを送られること
でしょう。同時に、過去と未来のはざまに
ある「今」を見つめることのできる得難
い機会でもあります。

私たちはつい、過去の出来事を思いわ
ずらい、まだ来ぬ未来に不安を感じてし
まうあまりに、「今」という瞬間への意
識が薄れてしまいます。「今」という瞬
間をおろそかにすることにより、その時、
自分が本当になすべきことを見失ってし
まうほか、生きていく上でどうしても直
面する厳しい現実や不条理を前に心が折
れてしまうものです。

そんな時、お釈迦様をはじめ多くの仏
教の先達は、呼吸に反ることにより「今、
ここ」を意識する術を伝えてくださいま

した。それが坐禅・読経・御詠歌・写経・
作務といった、行住坐臥(歩き、止まり、
座り、臥すといった日常のふるまい)に
なすべき仏行なのです。これらの共通点
は、身を調べ、呼吸を調べ、一心に一つ
のことに専念すること。禅は、何も坐禅
でなくとも、実践することが可能です。

とはいえ、生きていく上での大きな方
向性を定める必要はあります。もちろん、
仏教徒としては、六波羅蜜の徳目(布施・
持戒・忍辱・精進・智慧)を修め、仏の
悟りを目指して歩むことが大切な方向性
と手段ですが、各自が日常生活の中の
目標を短期的・長期的に定めることが重
要です。新年にあたってそれをしっかりと
定め、「今、ここ」を意識して心に念じ、
たゆむことなく実践を積み重ねていくこ
とこそ、望ましい未来につながり、「目
標」花を咲かせる最善の道なのです。

一年の計は元旦にあり。あなたはどの
新年、どんな「計」計画を立てますか？

合掌



仏事

Q & A

第三十回

Q、お通夜とお葬式は別々に行わなければならないのですか？

A、通夜、夜を通して故人について語り明かし、故人のことを一人一人の胸に「記憶する」儀式です。また、通夜において、授戒をし、亡き方に仏弟子になつていただきます。葬儀は仏弟子となつた亡き方をいよいよ仏さまの世界へと「お見送りする」儀式です。それぞれの目的の違いに目を向けていただければ、通夜と葬儀を別々に行う理由が明らかになります。

Q、亡くなった人が私たちに何か災いを起こすことはありますか？

A、ありません。死者が災いを起こすという考えは、日本人が古くから信じている、死者あるいは死そのものに対する怖れが生み出した考えです。仏教にはこのような考えはありません。亡くなられた方は仏さまとなって、のこされた家族を守ってくださる安らかな存在となります。

参考：「おくる」曹洞宗の葬儀と供養(編著・曹洞宗岐阜県青年会)

大安寺の宗旨：曹洞宗 本山：福井県永平寺・神奈川県總持寺 高祖：道元禪師 太祖：瑩山禪師
ご本尊：釈迦牟尼仏 本尊唱名：南無釈迦牟尼仏(なむしゃかむにぶつ)